

大阪府泉佐野市教育委員会が育鵬社版歴史・公民教科書を採択したことに抗議し、採択のやり直しを求める

1 本年8月19日、大阪府泉佐野市教育委員会は、市立中学校で2016年度から4年間使用する歴史及び公民教科書に育鵬社版教科書を採択した。

2 育鵬社版の歴史教科書は、「自虐史観」からの脱却を唱え、日本の引き起こしたアジア太平洋戦争が、アジア諸国の独立につながったと教え、日本の加害責任については曖昧な記述にとどまっている。同公民教科書は、国民主権よりも天皇の役割を情緒的に強調し、基本的人権を軽視して、日本国憲法及び平和主義を連合国から押し付けられたものであって「改正」すべきであるかのように教え、国際紛争の平和的な解決よりも、自衛隊を海外に派遣する必要性を強調する内容となっている。

このような育鵬社の歴史・公民教科書に対しては、歴史観・憲法観があまりにも一面的で教育基本法や学習指導要領に照らしても問題があるとして、多数の有識者や市民がその採択に反対の声をあげている。泉佐野市の採択は、かかる批判・反対の声を全く無視して行われたものであり、遺憾である。

3 中学生という時期は、人格的成長の途上の重要な時期にあり、未だ批判能力が十分に育っているわけではない。中学生への歴史や公民の授業において、育鵬社版教科書が使用されることになれば、上記のような一面的で偏った教育が行われることになり、生徒に回復しがたい重大な悪影響が及ぼされることが強く危惧される。

また、義務教育を修了させ、将来の主権者を育てる教育を行うという中学校の位置づけからしても、憲法について偏った記述が多い同教科書の使用は不適切といわざるを得ない。

さらに、日本の侵略戦争の事実の否定し、国際問題の平和的な解決を軽視する教科書による学習を強いることは、日本の将来に重大な問題を引き起こし、国内はもちろん、アジア近隣諸国からも厳しい批判を受けることは確実である。

4 泉佐野市教育委員会は、他の教科の教科書については、諮問した教科用図書選定委員会の答申で第1順位とされた教科書を採択した。しかし、同答申では育鵬社版教科書は、歴史では第6位、公民では第5位であったにも関わらず、育鵬社版を採択してしまった。このような採択は極めて不当かつ偏波である。このようなことがまかり通るのであれば、教科書図書選定委員会への諮問はポーズだけで、「歴史と公民は育鵬社」という結論ありきの採択だったと言わざるを得ず、民主主義と無縁の教育行政との批判を免れない。

5 われわれ自由法曹団は、大阪府泉佐野市教育委員会の今回の歴史・公民教科書の採択に対し抗議するとともに、同教育委員会に対し、改めて採択をやり直し、育鵬社版教科書を採択しないよう求めるものである。

2015年8月20日

自由法曹団
団長 荒井新二
自由法曹団大阪支部
支部長 上山勤